

Bluff Archives Monthly News

2019年2月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

「THE FAR EAST」と BLUFF

「THE FAR EAST」は横浜で発行された記事と写真とからなる隔週間の英字新聞で、発行者はジョン・レディ・ブラック。山手やその周辺地域も、紹介されている。紙面に直接写真が貼り付けられており、開港から間もない山手の様子がよくわかる貴重な資料である。

『復刻版「ザ・ファー・イースト」付録、貼付写真総目録』及び『文明開化期の横浜・東京』から山手居留地や周辺を写したものをリストアップしておきたい。(タイトルは目録のまま、撮影場所が判明するものは番地を追記)

横浜山の手の英国兵営の広場 1870.5.30
横浜イギリス兵営の将校ミサ室 (食堂が正しい)
1870.6.13
米国公使の居館 1870.7.16 (27番地)
山の手のある住宅 1870.8.1 (120番地付近)
横浜山の手のイギリス公使の居館 1870.8.1
日本の庭園 1870.9.1
横浜外人墓地 1870.8.16 1870.9.16
本村、南側 1870.9.16
横浜のフランス兵営 1870.10.1 (185番地)
横浜の東山の手 1871.1.5 [右の写真参照]
北方のあまのめ (天沼) 1871.3.16
横浜の公園 1871.7.1 (233番地)
公園の野外音楽堂 1871.7.1 (233番地)
西山の手の後方 1873.8.1
英国公使館 1873.8.1 (120番地)
西山の手の後方 1873.9.1
横浜西山の手の風景 1873.10.1
明治7年元旦 1874.1.1 (211番地・ブラウン邸)
横浜山の手英国兵営の司令部 1874.2
横浜山の手の家屋 1874.3

「THE FAR EAST」には、20点余りの山手関連の写真が掲載された。貼付写真は同じ発行号でもアングルなどが若干違っているものがある。当時、一枚の写真原板から印刷できる枚数が限られていたため、複数の原板を用意して印刷されていた、とのこと。

下にご紹介する 1971.1.5.に掲載された東側の海から山手居留地を撮った写真は、BLUFF の本来の意味「切り立った崖」の様子がよくわかる。標高約 40mの小さい台地である山手を「切り立った崖」と名付けたのは、開港まもない当時の風景が、そうであったからだろう。



山手東側の崖 『文明開化期の横浜・東京』P.57より転載

昨年8月と今年2月に開催した展示～横浜山手今昔「古写真・絵葉書に見る幕末・明治の世界」～の内容を紹介した冊子 **BLUFF STORY** (山手 234番館ほかで販売中) では、「THE FAR EAST」の貼付写真から数点を掲載、紹介している。また、貼付写真については『文明開化期の横浜・東京』の P.223【資料解説-1】に詳細が掲載されています。合わせて御覧下さい。(S) <参考資料>

『文明開化期の横浜・東京-古写真でみる風景-』

横浜都市発展記念館・横浜開港資料館編 2007年
『復刻版 THE FAR EAST』Vol.1～7 雄松堂出版 1966年
『みかどの都』金井圓、広瀬靖子編訳 桃源社 1968年
『開港のひろば 第99号』横浜開港資料館 2008年

ブラフアーカイブス = 横浜山手外国人居留地データベース = <http://www.bluff.yokohama>